

【担当教員名】 五十嵐 由利子		対象学年	3	対象学科	作業 健康
		開講時期	後期	必修・選択	必修 選択
		単位数	1	時間数	30
<b>&lt;概要&gt;</b>  日常生活の基盤である住環境は、様々な障害を持つ人たちは勿論、家族や介護する人たちにとっても重要である。住環境についてどのような整備や配慮が必要かを、住環境のバリアフリー論を中心に講義する。					
<b>&lt;学習目標&gt;</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の伝統的な住宅の特徴が分かる。</li> <li>・住環境のどこにバリアがあるかが分かる。</li> <li>・様々な障害の状況から、住環境における整備すべき事項を理解する。</li> <li>・日常の住生活における配慮すべき事項が分かる。</li> </ul>					
回数	授業計画又は学習の主題			S80	
				番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	はじめに 住居の機能				
2	1. 日本の伝統的住宅の特徴				
	風土と住まい、現代の住宅までの流れ、日本の住宅の特徴				
3	2. 住宅計画における課題と対応				
	1) 家庭における不慮の事故と高齢者の身体的・生理的特性				
4	2) 日本の住宅の基本的寸法と間取りの問題				
	3) 各室の広さと付帯設備の問題				
5	4) 住宅計画における整備の考え方				
6	5) 住宅政策にみる対応				
7	3. 住宅内の温熱環境における課題と対応				
	1) 住宅内の温熱環境に影響を及ぼす因子と衛生学的に見た日本の気候				
8	2) 住宅内の温熱環境に関わる評価指標				
9	3) 住宅の断熱・気密性能				
10	4) 屋内湿度				
11	5) 温熱環境の提案水準と室温の調整				
12	4. 日照調整と室内の明るさに関わる課題と対応				
	1) 日照の保健衛生的効果と日照調整				
13	2) 照明計画				
14	5. 住環境の整備と福祉のまちづくり				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書					
参考書		日本建築学会編：高齢者のための建築環境、彰国社、1994、2825円 梁瀬度子他：住環境科学、朝倉書店、1995、3600円			
その他の資料		プリント			
【評価方法】		【履修上の留意点】			
毎回の授業終了前に、5分程度で書けるミニテスト（ノート等参照可）を実施し、最終試験等と合わせ、総合的に評価する。					